

# フィンランド ベーシックインカム実験調査報告

20171215 中間労働市場研究会

## ベーシックインカムの論点

- 第1 国民のあいだの格差と貧困の拡大を有効に食い止められないことへの批判。社会保障の負担と支出を根本的に変更するために新旧の最低所得保障の構想が注目される。旧来の構想としてミルトン・フリードマンの「負の所得税」などが再注目され、新たな構想としてベーシック・インカムが浮上している。
- 第2 人口の少子高齢化に対する社会保障の構造的なミスマッチの増大である。社会保険制度の将来的な持続可能性への信頼が大きく揺るぎ、保険方式から税方式への移行・転換論が強まっている。
- 第3 経済先進国におけるこの数十年の労働市場の変容。完全雇用の困難。1980年代以降、ブルーカラーだけでなくホワイトカラーも含めた大量失業時代が到来し、先進国では生活保障目的であった失業手当の就労手当化など、社会保障のいわゆるワークフェア型の性格を強める改革が推進されている。

成瀬龍夫「ベーシック・インカムの魅惑と当惑」（2011）「大原社会問題研究所雑誌」法政大学大原社会問題研究所

## フィンランド共和国



### 1 面積

- 33.8万平方キロメートル

### 2 人口

- 約550万人（2017年1月末時点）

### 3 首都

- ヘルシンキ（約62万人，2016年4月時点）

### 4 言語

- フィンランド語，
- スウェーデン語（全人口の約5.4％）

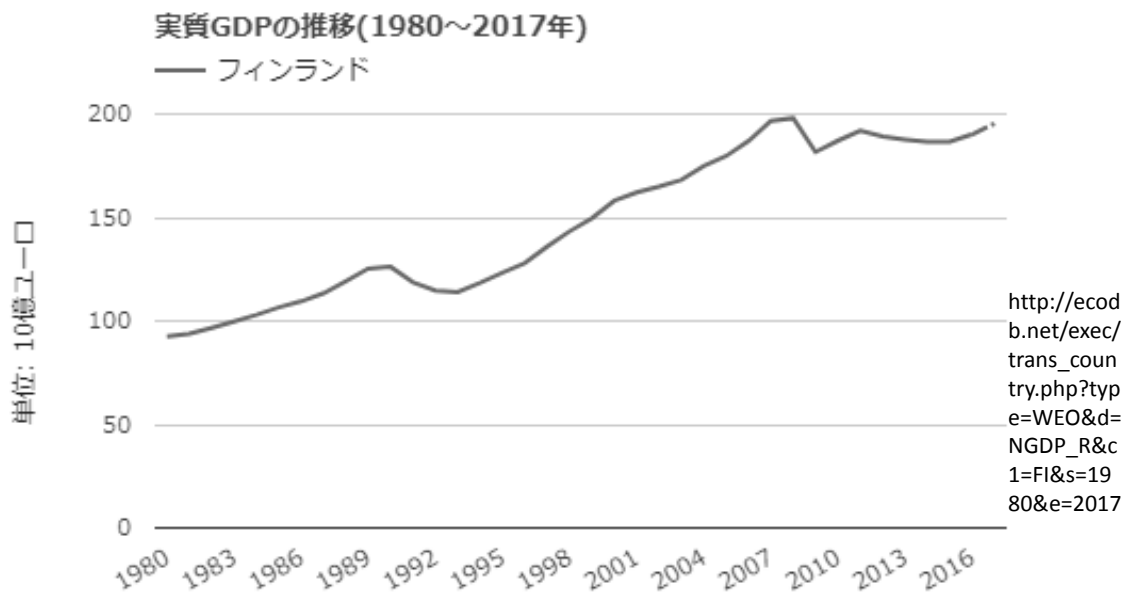
### 5 宗教

- キリスト教（福音ルーテル派，正教会）

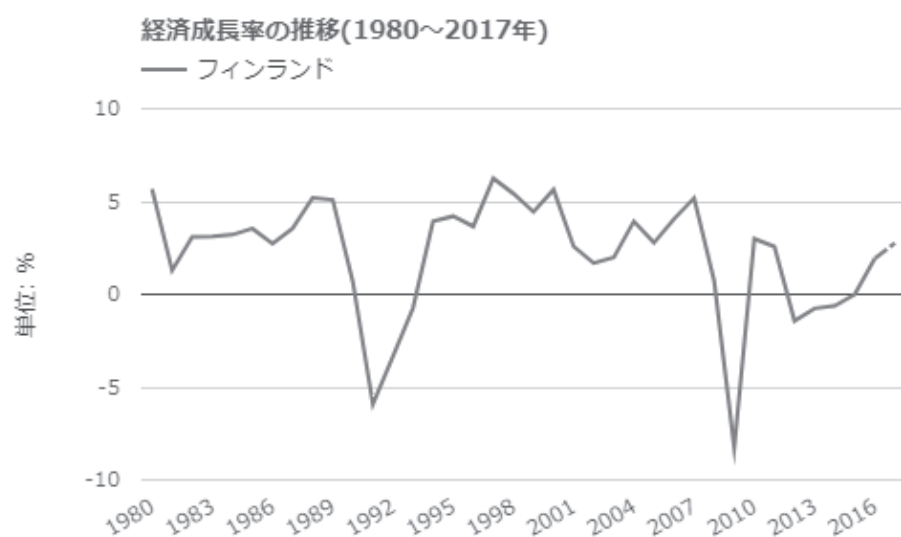
出典 外務省

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/finland/data.html>

## フィンランドの実質GDPの推移(1980～2017年)

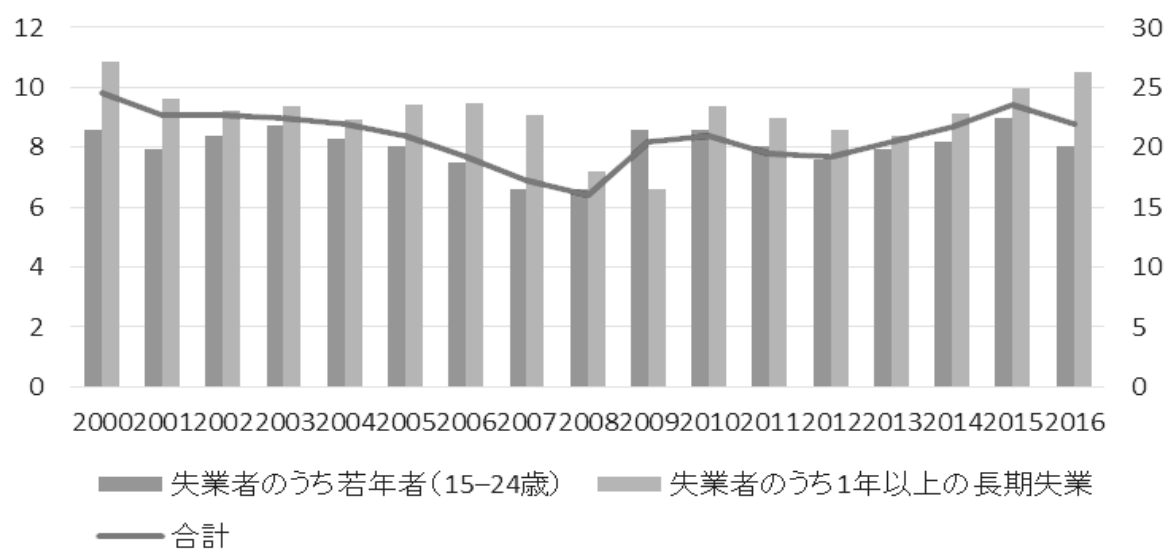


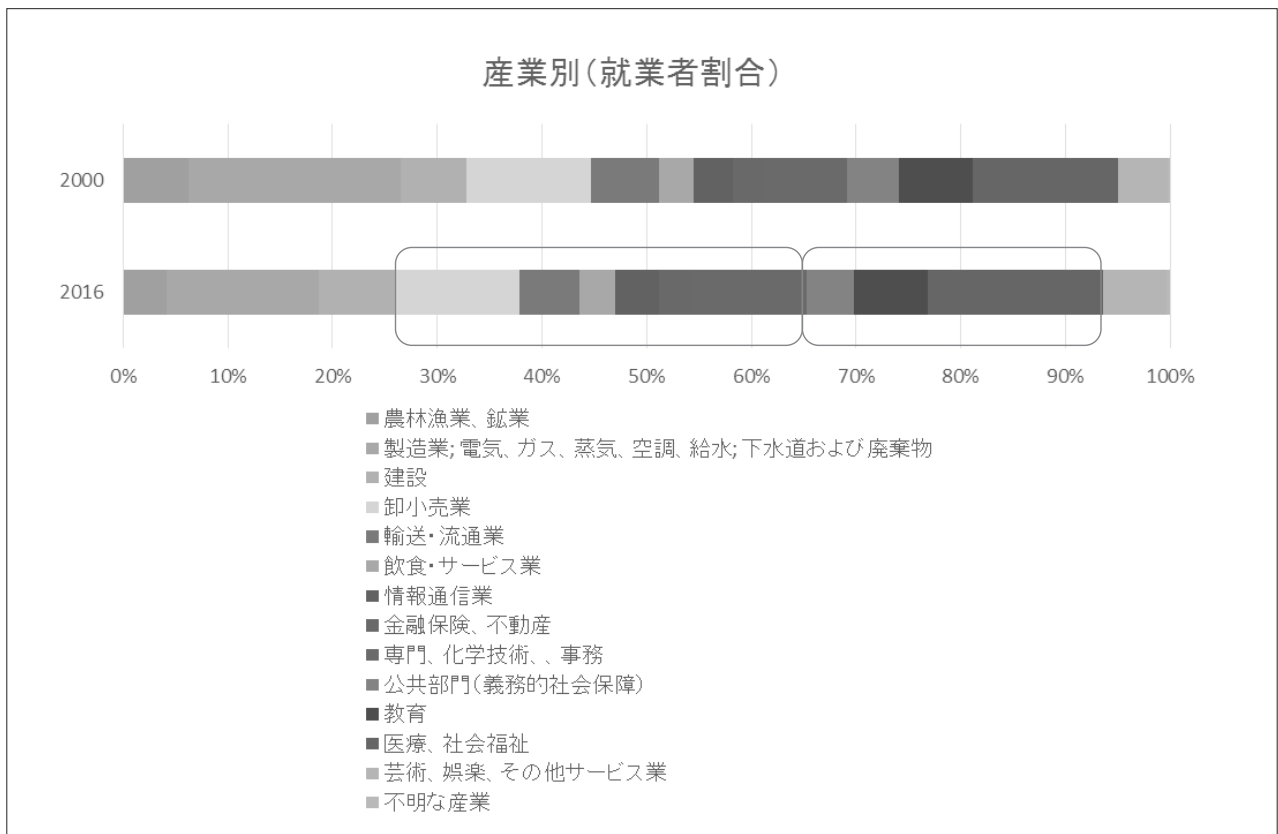
## フィンランドの経済成長率の推移(1980～2017年)



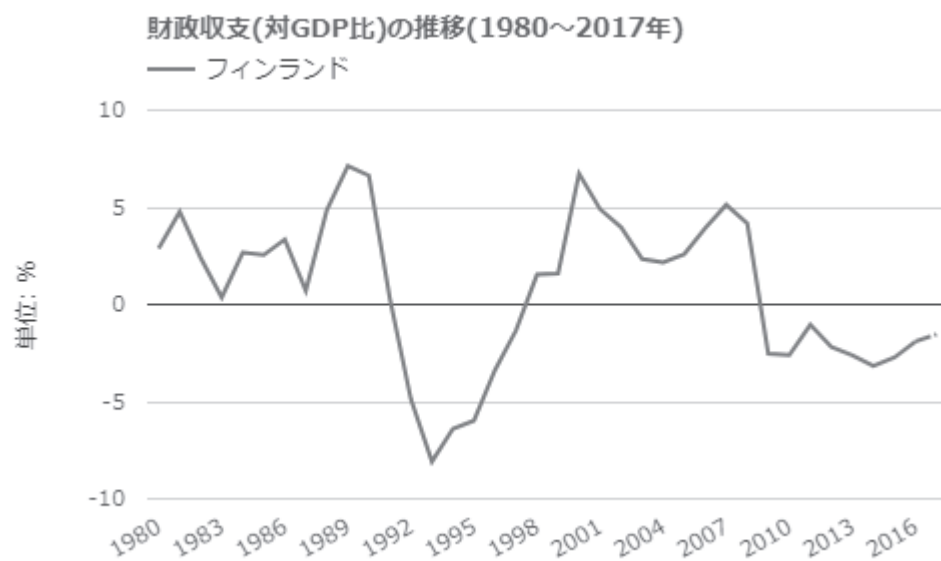
出典 [http://ecodb.net/exec/trans\\_country.php?type=WEO&d=NGDP\\_RPCH&c1=FI&s=&e=](http://ecodb.net/exec/trans_country.php?type=WEO&d=NGDP_RPCH&c1=FI&s=&e=)

## 失業率の推移(％)(2000年－2016年)





## フィンランドの財政収支(対GDP比)の推移 (1980～2017年)



## フィンランドの政治

内閣 中央党  
真フィン党  
連立政権

首相ユハ・シピラ  
2015年5月29 現職  
政党 中央党

政党名	得票数	得票%	議席数	議席%
フィンランド中央党	640,428	23.1	51	25.5
国民連合党	616,841	22.3	50	25
フィンランド社会民主党	594,194	21.4	45	22.5
左翼同盟	244,296	8.8	17	8.5
緑の同盟	234,429	8.5	15	7.5
キリスト教民主党	134,790	4.9	7	3.5
スウェーデン人民党	126,520	4.5	9	4.5
真のフィンランド人	112,256	4.1	5	2.5
フィンランド共産党	18,277	0.7	0	0
フィンランド老人党	16,715	0.6	0	0
資産家同盟（オーランド）	9,561	0.3	1	0.5
合計（投票率67.9%）			200議席	

## BI導入実験の経緯

2015年11月：Kelaを中心とする研究チーム立ち上げ

2015年12月：大臣と会談し、準備調査の責任を話し合う

2016年3月30日：BIの導入実験を提案する中間報告を政府が承認

2016年11月15日：実験デザインの詳細な最終報告

2017年1月：BI導入実験の開始（2年）

（研究グループ案 2017年 第一段階 失業者グループを対象  
2018年 第二段階 低所得者グループを対象）

2019年：実験結果の最終報告・評価

（2019年4月14日の選挙）

## 研究グループの提言

- ・ランダム化比較試験でBIをテストすること
- ・関連する人口グループでターゲットを作成すること
- ・個別の課題をもつグループに対応するモデル作成すること
- ・統計計算に基づいてサンプルサイズを定義すること
- ・地域の調査を実施してネットワーク効果を調べること
- ・義務的参加より自発的参加を好むこと
- ・主な成果に関する登録情報を活用する

## Kela ベーシックインカム実験の概要

- ・ベーシックインカム支給額：毎月560ユーロ（約6万7000円）
- ・対象：2016年11月に臨時解雇以外で、Kelaが2016年11月に臨時解雇以外の理由で労働市場補助金または基本失業手当を支払った25歳から58歳。ランダムで選ばれた2,000人。  
ミーンズテスト無し、就労、就職活動実績などは支給に影響しない
- ・男女比 52：48（%）
- ・年齢構成 25歳から34歳30%、35歳から44歳29%、45歳から58歳41%
- ・実験方法：①2017年1月1日から実施期間は2年、ランダムに選んだ2000人を対象に、月額560ユーロを無条件に支給する。  
②行動の分析のために年齢や就職状況のほか個人IDや名前も行政と研究グループで共有される。

## BI実験のバックグラウンド

- 国民の支持と政治的支援：  
BI実験に政治的方向性を超え69%の国民が支持（2015年）
- ユハ・シピラ政権の政府プログラム（2015年）BI実験実施を盛り込む  
実験予算2,000万ユーロ／2年間（2017-2019）
- 新たな社会的条件にあう方針の作成  
（収入関連の給付、基本的な社会保障、各種支援の統合）
  - ①労働逋減を減らす（失業罨、収入罨）
  - ②費用のかかる管理を削減する（官僚トラップ）
  - ③パラダイムシフト、活性化方針の継続と見なされない実験

Jurgen De Wispelaere (2016), Basic Income on the Agenda: Reflections on the Finnish Basic Income Experiment

## BIに対する国民投票の結果（2015年）

	BI , no tax mention	BI €500/ tax 40 %	BI €600 tax 45 %	BI €700 tax 50 %	BI €800 tax 55 %
Very good idea	29,0	8,2	5,3	6,8	10,4
Good idea	40,3	26,5	29,1	24,6	18,6
Bad idea	18,5	29,5	33,3	35,2	31,2
Very bad idea	8,1	30,2	26,4	27,2	33,8
No opinion	4,1	5,6	5,9	6,2	6,0

Jurgen De Wispelaere (2016), Basic Income on the Agenda: Reflections on the Finnish Basic Income Experiment

## 国内でのBI実験の実施に対する評価 (Jurgen De Wispelaere)

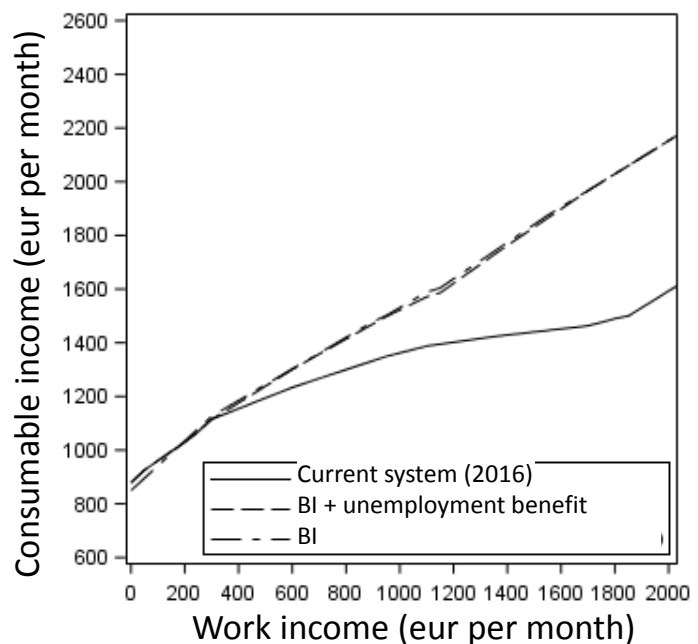
- ・ 科学的なフィールド実験：  
ランダム化比較実験（RCT）を通じたBI実験による対象者の行動観察
- ・ 実装試行：導入にかかわる実務的な課題の発見（試行実験）
- ・ 政治デモンストレーション：  
政治的にアジェンダを実行するために
  - ・ 主要なステークホルダーである一般市民の間に意識を高めること
  - ・ 機会の窓を開くこと
  - ・ 幅広い政治的な連立建設する「en route」
  - ・ 「BI」のインパクトを宣伝することによって、反対意見を克服する

Jurgen De Wispelaere (2016), Basic Income on the Agenda: Reflections on the Finnish Basic Income Experiment

## BI実験の検証 ＜現段階まで＞

- ・ 憲法で保障する人権保護との整合性
- 無作為抽出したサンプル実験で、憲法に遵守したものであることがわかっている。
- ・ BIの取扱は、政策形成と同じくらい難しい。

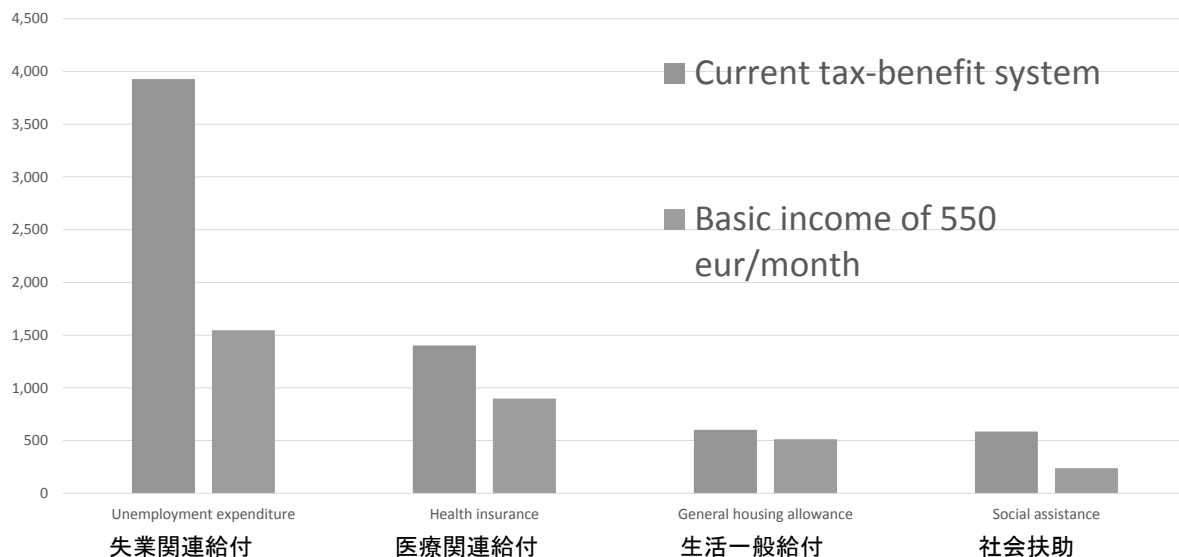
出典 Miska Simanainen,  
*Experimenting with basic income  
in Finland 2017–2018*, Social  
Insurance Institution of  
Finland 24/10/2017





## BI導入による社会保障給付費の変化

Benefit expenditure (million euros)



## 就労促進の効果

- 労働所得と可処分支出額をみると、

① 現行制度（2016年）

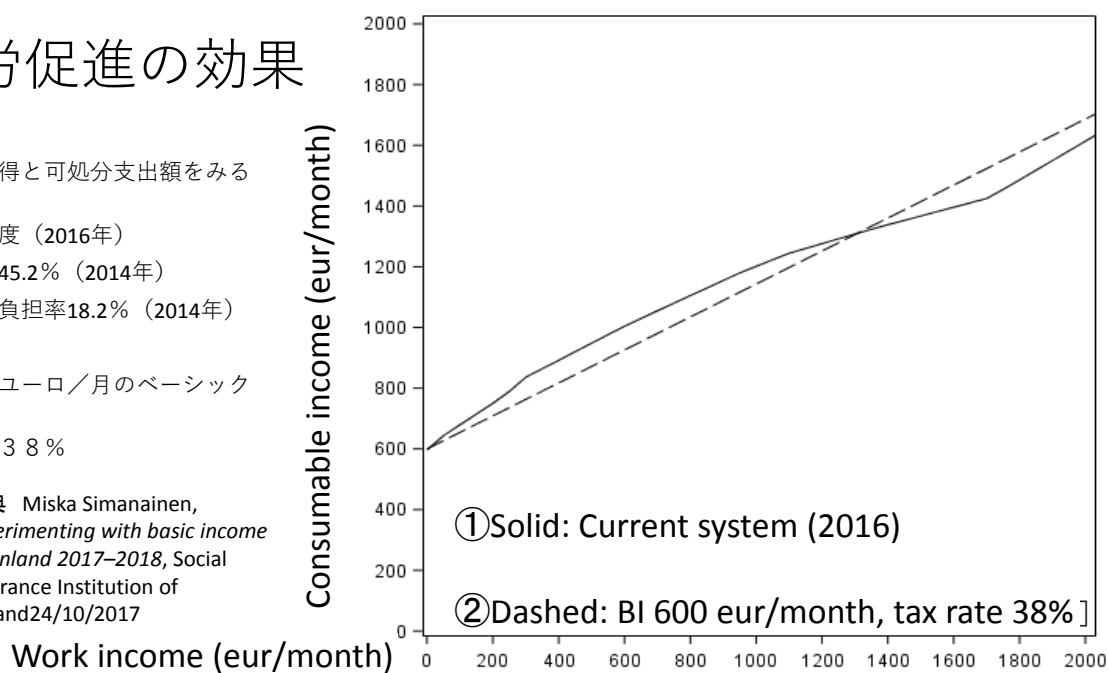
税負担率45.2%（2014年）

社会保障負担率18.2%（2014年）

② 600ユーロ／月のベーシックインカム

税負担率38%

出典 Miska Simanainen,  
*Experimenting with basic income in Finland 2017–2018*, Social Insurance Institution of Finland 24/10/2017



## <参考> フィンランドの社会扶助基本額

		基本月額 (ユーロ)
一人暮らしの人、従属する子どもなし		487.89
世帯を共有する18歳以上の人(単独で暮らす人の基本金額の85%)		414.71
片親(一人暮らしの基本料金+ 10%)		536.68
親と同居している18歳以上の人(単独で生活する人の基本金額の73%)		356.16
10～17歳の子供がいる世帯	こども1人目(一人で暮らす人の基本金額の70%)	341.52
	こども2人目(一人暮らしの基本料金の65%)	317.13
	こども3人目、他のすべての子供、それぞれ(1人で暮らす人の基本金額の60%)	292.73
10歳未満の子供がいる世帯	こども1人目(一人で暮らす人の基本金額の63%)	307.37
	こども2人目(一人で暮らす人の基本金額の58%)	282.98
	こども3人目に年長の兄弟姉妹であり、他のすべての子どもたちである (それぞれ単独で暮らす人の基本額の53%)	258.58

Kela HPより (<http://www.kela.fi/web/en/social-assistance-types-of-expenses-for-which-you-can-get>)

## 現時点での評価 (kela)

「一時的な雇用がもはや給付を減らしたり、支払いを遅らせることがなくなったので、はるかに安全だと感じています。起業家に戻ることは今でもずっと簡単になるだろう」

「私の職業は、助成金で資金提供される非常に短いプロジェクトに基づいています。基本的な収入は、人生をはるかに容易にする。」

「起業し、ビジネスを始める絶好の機会です。起業家は、十分に支持されています。一時的な仕事から別の仕事に切り替えるか、もっと自分自身を教育することにすれば、それ以上の制裁はない、と安心して」

「一時的な仕事をするのは簡単だし、公務員と接触する必要もなくなった」

出典 Miska Simanainen, *Experimenting with basic income in Finland 2017–2018*, Social Insurance Institution of Finland 24/10/2017

## 参考文献

- ・ 外務省 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/finland/data.html>
- ・ 成瀬龍夫「ベーシック・インカムの魅惑と当惑」(2011)「大原社会問題研究所雑誌」法政大学大原社会問題研究所
- ・ レイヨ・ミエッティネン著、森勇治訳 [2010] 『フィンランドの国家イノベーションシステム 技術政策から能力開発政策への転換』新評論、Miettinen, Reijo [2002], National
- ・ Jurgen De Wispelaere (2016), Basic Income on the Agenda: Reflections on the Finnish Basic Income Experiment
- ・ Miska Simanainen, *Experimenting with basic income in Finland 2017–2018*, Social Insurance Institution of Finland 24/10/2017 (2017年11月1日 kela 訪問時説明資料)
- ・ Olli Kangas, 2015, Experimenting with Basic Income in Finland, Research Director Kela, Social Insurance Institution of Finland, <https://www.slideshare.net/kelantutkimus/experimental-study-on-a-universal-basic-income-in-finland>
- ・ Prime minister's office, 2015, Finland, a land of solutions Strategic Programme of Prime Minister Juha Sipilä's Government, [http://valtioneuvosto.fi/documents/10184/1427398/Ratkaisujen+Suomi\\_EN\\_YHDISTETTY\\_netti.pdf/8d2e1a66-e24a-4073-8303-ee3127fbfcac](http://valtioneuvosto.fi/documents/10184/1427398/Ratkaisujen+Suomi_EN_YHDISTETTY_netti.pdf/8d2e1a66-e24a-4073-8303-ee3127fbfcac)
- ・ Research at Kela, 2016, From idea to experiment. Report on universal basic income experiment in Finland, <https://www.slideshare.net/kelantutkimus/from-idea-to-experiment-report-on-universal-basic-income-experiment-in-finland>
- ・ Ministry of Social Affairs and Health, Research group recommends expansion of basic income experiment, Government Communications Department, 2016.12.16, [http://stm.fi/artikkeli/-/asset\\_publisher/10616/tutkimusryhma-suosittelee-perustulokokeilun-laajentamista?\\_101\\_INSTANCE\\_yr7QpNmIjmsJ\\_languageId=en\\_US](http://stm.fi/artikkeli/-/asset_publisher/10616/tutkimusryhma-suosittelee-perustulokokeilun-laajentamista?_101_INSTANCE_yr7QpNmIjmsJ_languageId=en_US)
- ・ Unto Härmäläinen, 2015, This is Finland, new finnish government tests the waters, <https://finland.fi/life-society/new-finnish-government-tests-the-waters/>
- ・ Uusi Suomi Senior, HELSINKI TIMES, ministry official picks holes in proposed basic income scheme, 20 JULY 2017